

特集：日本 / アジア / 日本

「国境」が明確な姿をもって立ち現れるのは近代以降のことであり、「国民」形成の物語は近代の産物だとみなされる。前近代にあつては、「国境」の向こうとこちらに截然と区別し得ない存在がアジアのそこかしこに見出され、彼らが「国境」を越えて自由に行き来したともいう。そして、統一的な政治権力による人為的な線引きが人々の自由な動きを封じ込め、それが近代「国民国家」を準備したとも理解されてきた。けれど虚心に眺めると、近代以後の「国境」に類似する境界線—いわば「国境未満」の境界線を前近代にも見出すことができるし、近代以後につながり／つながらない「日本」の存在が指摘できそうだ。

アジアを介して「日本」を眺め直したい。アジアとの関係いかがが問題なのではなく、「国境未満」の向こうとこつちを意識することを介して、近現代以後の「日本」を捉えかえしたい。「アジア」とは何を指すのかも問題ではある。とりあえずは、実際に眼に見え、手に触れられる近隣の異国・異域から出発し、さらに思考の幅を広げてみたい。